

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	鹿島市立明倫小学校
-----	-----------

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・保護者アンケートからは、本校の教育活動に対して昨年度に引き続き、おおむね良好な評価を受けている。 ・学力向上においては、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に、1人1台端末の活用やあてを意識した授業づくりが進んだ。さらに主体的に学ぶ児童の育成を図りたい。心の教育においては、児童理解を深め、組織的に対応するように努力した。個別に対応が必要なケースが増えてきているので、引き続きSCやSSW、鹿嶋市の福祉課や民生児童委員と連携して対応していきたい。健康・体づくりにおいては、食育タイムや食育の学習を使って健康に良い食事を心掛ける児童を増やすことができた。業務改善、働き方改革については、昨年度に比べ改善傾向が見られた。さらなる業務の見直しや職員の意識改革が必要である。 ・地域の人材を生かした活動として、面浮立の面づくり、米づくり等に取り組めた。今後も、地域人材を有効に活用していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	【知】自ら考え学ぶ子どもの育成 【徳】思いやりのある子どもの育成 【体】たくましい子どもの育成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(イ)共通評価項目										主な担当者
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○主体的に学びに向かう児童の育成	○「見通しをもって自ら学習に取り組んだ」と肯定的な回答をする児童80%以上。 ○「めあてからふりかえりまでの学習過程に沿った授業を実施できた」と肯定的な回答をする教師90%以上。 ○タブレットを積極的に活用して「役に立った」と回答する児童100%。	・授業でのICT積極的活用と共に、タブレットドリル等を家庭学習で活用していく。 ・児童の興味関心を高める課題設定の工夫。 ・児童が進んで課題解決に取り組むための見通しの具体化。	A	・指導法改善やワークシートの活用により、「見通しをもって自ら学習に取り組んだ」と肯定的な回答をした児童93.5%。「めあてからふりかえりまでの学習過程」に沿った授業を実施できた。」と肯定的な回答をする教師が93.8%。 ・タブレットを効果的に活用する場面を設定したことで、「役に立った」と回答する児童が99%だった。	A	・「見通しをもって自ら学習に取り組んだ」児童93.6%で、十分達成できた。 ・「めあてからふりかえりまでの学習過程」に沿った授業を実施できた。」教師83.3%で、やや不十分であった。 ・タブレットを積極的に活用して「役に立った」と回答する児童98%で十分達成できた。	A	・タブレットを積極的に活用するのはとても良い。「書く」という作業に影響がないようにしてほしい。 ・授業では子どもたちの目が輝き、先生の話を聞いて積極的に学んでいるという印象を受けた。 ・成果目標80%以上に設定されている取組の結果、児童の自己評価が90%以上はすばらしい。	・指導教諭 ・学力向上コーディネーター ・学力向上チーム
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「生活の4つの約束を守ることの良さを感じる」と肯定的に回答する児童90%以上。 ○「いい声(人の心にやさしい声)」ができた」と回答する児童90%以上。	・月ごとの生活のめあてを設定し、月末に振り返りを行う。 ・道徳教育の充実を図り、「ふれあい道徳」を授業参観日に行う。	A	・「生活の4つの約束を守ることの良さを感じる」と肯定的に回答する児童91.3%、「いい声」ができた」と回答する児童96%。 ・教員側が児童に求める姿と児童側の自己認知との間に差がある。自分がどの基準にいるか判断するための材料としてルーブリックを活用する。	A	・「生活の4つの約束を守ることの良さを感じる」と肯定的に回答93%、「いい声」ができた児童が97.3%で達成できた。 ・一部の児童を除き、落ち着いて学校生活を送ったが、指導に一貫性を持たせるために、教員側が児童に求める姿を共通理解する必要がある。	A	・「声を出すことは社会に出てからよいこと。今は、はっきり声を出す訓練の時期である。大半はとても達成できているが、下校時に帽子をかぶらなかつたり、車道側を向いてしゃがんだりする児童もいて、少し危ない場面があった。」 ・取組の結果が90%以上はすばらしい。	・生徒指導主任 ・心育でチーム
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員がいじめ見逃し0を目指す。	・QUテストを実施し、効果的に活用する。 ・学校全体で対応できる体制をつくる。 ・心のアンケートを定期的に実施する。	B	・毎月1回の心のアンケート、保護者面談や保護者アンケートなどによる情報取集を行い、確実に指導を行うことができる。 ・QUテストのより効果的な活用について今後研修を行う。	B	・心のアンケートや保護者との連携によって、「いじめ見逃しゼロ」児童94.2%であり十分達成できたが、見逃し0を目指していかなければならない。	A	・94.2%は高い数値。0にこしたことはないが見逃さないという姿勢がいじめの抑止力になると思う。 ・いじめ見逃し0の取組は苦勞が多いと思う。日頃のちょっとした変化を見逃さず、児童が相談しやすい関係作りに取り組んでほしい。 ・十分注意しているとも起こるのかもしれない。発生時には全職員で事前・事後の指導の充実を望む。	・管理職 ・教育相談担当 ・学年主任
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標に向かって努力している」と回答する児童85%以上。 ◎「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と回答する児童80%。	・キャリアパスポートを活用し、目標や見通しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して伸びた力について振り返らせたりする。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。	A	・「将来の夢や目標に向かって努力している」と回答した児童は92.9%だった。 ・「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と回答した児童は92.5%だった。どの学年でも地域の方々に協力していただき、地域のよさを生かした体験活動をしたことが効果的だった。	A	・「将来の夢や目標に向かって努力している」と回答した児童は92.6%だった。キャリアパスポートだけでなく、様々な学習活動でめあてをもつて取り組ませることができた。 ・「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と回答した児童は92.3%で十分達成できた。	A	・小さいころから将来のことを見据えるということとは、日々の取組にも影響していく。このまま続けてほしい。 ・故郷鹿島のよさについてこれからも継続指導を求める。	・特活主任 ・学年主任 ・ときめきチーム
●健康・体づくり	○児童が主体的に取り組む特別活動の充実	○「学校行事や学級活動、児童会活動に進んで取り組んでいる」と肯定的に回答する児童85%以上。	・行事において実行委員を募り、児童が主体的に活躍できる場を設定する。 ・振り返りを生かすことで、児童自ら気付いて行動できる委員会活動を支援する。	A	・どの学年も実行委員制を取り入れて活動をした結果、「学校行事や学級活動、児童会活動に進んで取り組んでいる」と肯定的に回答する児童が96%だった。	A	・「学校行事や学級活動、児童会活動に進んで取り組んでいる」児童は93.4%で、どの委員会も児童のアイデアを活かした創意工夫のある活動ができた。	A	・積極的に活動ができていてよいと思う。 ・児童を中心に据えた創意工夫のある取組はすばらしい。先生方の指導の賜物である。	・特活主任 ・研究主任 ・ときめきチーム
	①運動習慣の改善や定着化 ②望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒80%以上。 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上。	・運動に頼むことで体力の向上が図れるような魅力的な体育の授業実践を行う。 ・食育指導や保健体育、学級活動等での学習を通して、生活習慣を整えることの大切さを理解させる。 ・生活習慣に関するアンケートを実施する。(2月に実施予定)	A	・体育環境の整備と、外部講師の活用により教科担任制などにより、体育授業の充実を図っている。 ・授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童83.3%。 ・月1の全校食育タイムや年1回の栄養教諭との授業を通して、食への興味・関心を高め、望ましい食習慣の形成を図り、「健康に良い食事をしている」と回答した児童85.5%。	A	・体育環境の整備と、外部講師の活用により体育授業の充実を継続して図ってきた。 ・外遊びを好む児童が増え、授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上と回答した児童が84.7%に増えた。 ・1月に全校弁当の日を設け、食事を作ることや栄養バランスなどへの関心を高めた。「健康に良い食事をしている」と回答した児童は87.7%と増えた。	A	・以前より外で活動する児童が増えた印象である。移動の時、けがをしないように自転車の安全な乗り方の指導をしてほしい。 ・「体を使って遊ぶ」習慣作りは将来的にも大事な児童の達成度が高いことは喜ばしい。 ・若干ではあるが楽しく遊べない児童が存在するとしたら、支えてやってほしい。	・体育主任 ・栄養教諭 ・養護教諭 ・体づくりチーム
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間 年間360時間)を遵守する職員100%。	・時間外勤務45時間以内及び定時退勤推進日を守れたが、月末に振り返り、その達成度を可視化する。 ・年次有給休暇を計画的に取得するよう働きかける。	C	・時間外月45時間を遵守した職員の割合は、月平均80%だったが、繁忙期は60%に落ち込む月もあった。今後タイムマネジメントを意識した業務遂行ができるよう、管理職から働きかけていく。 ・年次休暇取得は、呼び掛けを続けていく。	B	・時間外月45時間を遵守した職員の割合は、月平均80%だった。同じ職員が45時間を超えて業務しており、これは職員の授業づくりの意欲でもある。 ・年休は自分の取得状況に応じて、長期休業中に計画的に取得することができた。	A	・職員がストレスをためないようにしてほしい。 ・仕事内容が多岐にわたるので、勤務時間内に済ませることは苦勞されていると思う。なるべく残業の無いよう努力してほしい。 ・授業づくりをやりたくて時間外をしている先生もいると思うので理解してやってほしい。	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別な支援を必要とする児童に対しての校内支援体制と個に応じた支援の充実	○特別な支援を必要とする児童について、教職員、保護者、関係機関と連携を図りながら、よりよい支援の在り方や具体的な支援方法を検討することができた」と回答する職員80%以上。	・定期的な児童理解研修を実施することで、教職員の共通理解を図ると共に、支援体制の構築やよりよい支援に生かす。 ・特別支援学級担任や特別支援教育CO、支援員との連携を密にし、児童が安心して学習に参加できるようにする。	A	・特別な支援を必要とする児童について、よりよい支援の在り方や具体的な支援方法を検討することができた」と回答する職員87.5%。 ・今年度の支援を来年度に引き継いでいくことができるように、必要に応じて保護者面談の実施や資料作成を行うなど、丁寧な引き継ぎを行っている。	A	・特別な支援を必要とする児童について、よりよい支援の在り方や具体的な支援方法を検討することができた職員94.1%であり、十分達成できた。 ・通常学級、特別支援学級の在籍に関わらず、支援や特別な配慮を要する子どもは増加傾向にあるため、特別支援教育に関する理解をより一層深めていく必要がある。	A	・特別な支援を要する児童の増加は、多様化する家庭環境や社会の縮図かもしれない。校長先生をはじめとする先生方の協力体制のもと、充実した指導をお願いしたい。 ・特別支援教育の内容が多岐になっており、何が特別支援教育なのか分りにくくなっている印象がある。	特別支援教育コーディネーター

2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○地域人材及び関係機関との連携強化	○地域人材を活用した教育活動を各学年年間1回以上実施。 ○学校運営協議会やSG、SSW、鹿島市の福祉課や民生児童との情報交換の場を必要に応じて複数回実施。	・学年に応じた地域人材を活用した教育活動を年間計画に位置付ける。 ・学校内外からの学校への指導助言を生かして学校改善を行う。 ・学校便りの配布やマチコミメールを活用した月2回以上の情報発信に努める。	A	・環境教育プログラム、お面作り、料理教室、防災教室など、各学年で地域の人材を活用した教育活動を行うことができている。 ・学校の諸課題を学校運営協議会やSG、SSWだけではなく関係機関と連携して課題解決を図っている。また、常に学校だより、マチコミメールで情報発信を行っている。	A	・すべての学年で、地域人材を活用した教育活動を計画的に行うことができた。地域人材、関係機関や団体との教育活動によって児童の社会に対する関心や視野が広がった。 ・児童のよさとともに指導すべき行動について学校便りやマチコミメールでその都度情報発信を行い、地域や家庭に情報発信を協力を求めた。	A	・多方面において充実した取組がなされている。今後も地域人材を生かした教育活動の推進を期待する。 ・地域の方々による教育活動は、児童の地域への関心を高めるためにもとてもよい。	・CS担当者 ・管理職

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・学力向上に関して、タブレットを効果的に用いた授業実践や家庭学習の工夫が図れた。次年度はこの実践を生かし目に見える成果を出すために、全国学習状況調査や県調査で目標得点を設定し、職員の共通理解と共通実践を行う。 ・支援や特別な配慮を要する児童が増えてきているので、今年度以上に職員の特別支援教育についての専門性を高めるための研修会の場を増やしていきたい。また、特別支援教育についての情報発信を積極的に行い啓発していく。 ・職員の時間外勤務時間縮減のため、勤務時間を意識し、集中して業務に専念させる。そのために、定時退勤日の確実な実施と、その日以外も退勤時刻を設定する。そうして職員一人一人が業務に集中して取り組み、また見通しをもって取り組めるようにする。
--------------------	---